

再生・活性化を果たした商店街事例 No.22

九条新道駅前商店街(大阪府大阪市)

【取組の方向】 日本が世界に約束した“お・も・て・な・し”サービスで日本一を目指す

星の数だけ“お・も・て・な・し”商店街

店舗数39。

○商店街の置かれた状況。

- ・交通アクセスの良さから都心部へ若い人が流れ、来街客層が高齢化。売上減少と比例して空き店舗が出始めた。
- ・後継者難によって商店街の将来に不安を感じはじめていた。



○対応策

- ・駅前という有利な立地を背景に、各種事業に取り組み、一定の賑いを維持してきたがイメージを刷新する方向でスタート。
- ・商店街キャラクターの有効活用と個店のサービスを見直し。

【理事長の覚悟】

“お・も・て・な・し”は東京オリンピックまで続く日本の約束。その時まで「おもてなし事業」を続けて商店街の活性化につなげたい。

○状況変化

自治体から派遣された専門家とともに商店街の役割と長所を見直し、商店街のイメージをリフレッシュするコンセプトテーマを「おもてなし」と設定、何ができるか検討した。イベント準備の段階で、商店街よろず相談アドバイザーの支援を依頼した。



○具体的取組

・個店のサービスを書き出し、商店街のキャラクターである星マークをサービス(星)の数だけ「おもてなし」として店頭表示、イベントのチラシも“おもてなし”を前面に出しサービスのよい商店街のイメージを打ち出す。

○具体的成果

- ・「おもてなし」イベントを実施、商店街イメージをリフレッシュできた。
- ・取り組みの方向が定まって、イベントがやりやすくなった。
- ・「おもてなし」イベントを契機に生鮮食料品店の新規出店があった。
- ・商店街の雰囲気がよくなり空き店舗率が7%改善した。



【地方自治体の取組】

市は地域商業活性化事業として商店街活性化コーディネーターを派遣、方向が見えた段階で、にぎわい助成を活用してイベントを実施。